

二〇一四年五月三〇日

野良猫の居眠る蔵の片陰に
偕老の二人が潜る薔薇アーチ
緑陰に昼餉どきなる郵便夫
絵図を手に女郎塚訪ふ街薄暑

よし子
ぼんこ
よし女
満天

二〇一四年五月二十九日

青葉木菟育む神の大けやき
無縁墓灼けて片寄せられにけり
城跡に残る土塁や草葎
石庭の岩から岩へ蝶あそぶ
余花に逢ふ信濃めぐりのバスの旅

雅流

菜々

よし子

満天

ぼんこ

二〇一四年五月二十八日

白壁が囲む石庭柿若葉
時鳥ないて家路へ急かせけり
緑蔭に半跏趺坐なる石仏
薔薇園に薔薇のかほりの氷菓食ぶ
バクダンに非ずポン菓子祭路地

満天

有香

うつぎ

なつき

あさこ

二〇一四年五月二十七日

手におどる土つきらつきよ洗ひけり
青梅雨のきらめき落つる鎖樋

満天

うつぎ

二〇一四年五月二十六日

頼る木のありて山藤高きかな
青葉木菟名の大槻へ今年また

ひさ野

雅流

屋網の大漁に立つ活気かな

宏虎

万緑を二分ケしたるロープウェイ
畑仕事今日はやすめと雨蛙
野良仕事励め励めと時鳥
呪文聴くごとき祝詞や薫風裡

さつき
よし女
三刀
菜々

二〇一四年五月二十五日

春昼の仮設住宅人を見ず
新しき鈴の緒成りて宮若葉
八つ橋を杖つく母に日傘さす
ゴーヤはや張りしネットに蔓のぼす
菜園にはや人影や明易き
万緑にひびく神鼓や楠公祭
初生りのトマトを贅に朝の卓

せいじ

はく子

なつき

うつぎ

さつき

菜々

よし女

二〇一四年五月二十四日

長汀の白砂踏みゆく夏帽子
早苗田の正しきすじめ風そよぐ
佇つ吾に舞ひ寄る蝶は亡き子かも
鉄線花蔓ぐちゃぐちゃに纏れけり
子ら駈ける渚よ蟹も走りけり
老鶯や四阿借りてミニ句会
工場のとんがり屋根や麦の秋

三刀

ひさ野

あさこ

よし子

よし女

きづな

なつき

毎日句会みのる選・二〇一四年六月一日